

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称) オンブラージュマンション		階数	地上10F
建設地	熊本市都市計画事業菊陽第二土地区		構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし		平均居住人員	84 人
気候区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月	予定	評価の実施日	2016年6月15日
敷地面積	1,195 m <sup>2</sup>		作成者	
建築面積	268 m <sup>2</sup>		確認日	2016年6月25日
延床面積	2,231 m <sup>2</sup>		確認者	



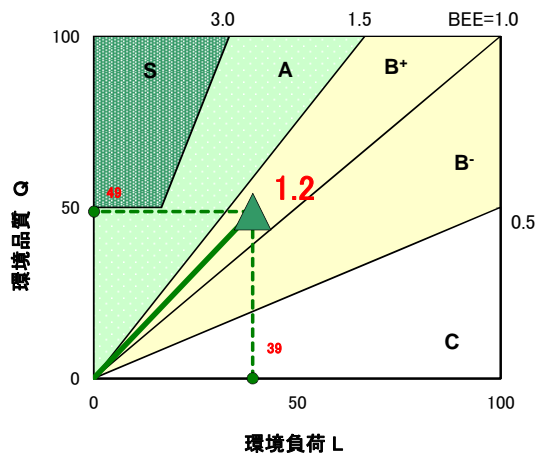
## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$



### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



### 排出率

73%

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



### 評価点

74

### 評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

88.0

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

65.0

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

67.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

63.9

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オンブラージュマンション	階数	地上10F
建設地	熊本都市計画事業菊陽第二土地区	構造	RC造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	84人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年6月15日
敷地面積	1,195 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	268 m <sup>2</sup>	確認日	2016年6月25日
延床面積	2,231 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	73%
③上記+②以外の	73%
④上記+	73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

音環境	3.2
温熱環境	3.0
光・視環境	3.8
空気質環境	3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	3.1
耐用性	3.0
対応性	2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.9
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源	3.0
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	4.0
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 74**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 88.0	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 65.0
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 67.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 63.9

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

省エネルギーや耐久性を考慮して、地球温暖化防止、ヒートアイランド現象の緩和に努めている。

### Q1 室内環境

屋外の光を部屋の中に積極的に取り入れると共にバルコニーやカーテンによりまぶしさへの対策を行っている。化学汚染物質の最小化及び換気量を確保している。

### Q2 サービス性能

耐用年数の永い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。

### Q3 室外環境（敷地内）

駐車場に緑地を設け、ヒートアイランド現象の緩和と快適に居住できる環境の整備に努めている。

### LR1 エネルギー

LED照明器具を採用し省エネルギーを図っている。各住戸の採光と通風を確保する配慮をしている。

### LR2 資源・マテリアル

節水器具の利用により、節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。

### LR3 敷地外環境

小型燃焼機器からのNo x 排出を基準以内に抑制し、大気汚染防止に配慮している。

### その他

特になし

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>			0.15	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.2</b>
1.1 騒音			-	3.0	0.50			
1.2 遮音			-	<b>3.5</b>	0.50			
1 開口部遮音性能			-	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		(住)D数の予測式より、Dr=50以上	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		置き床ユニット:Lr=45	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
1.3 吸音			-	-	-			
<b>2 温熱環境</b>			0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>3.0</b>
2.1 室温制御			-	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温			-	-	-			
2 外皮性能			-	3.0	1.00			
3 ゾーン別制御性			-	-	-			
2.2 湿度制御			-	-	-			
2.3 空調方式			-	-	-			
<b>3 光・視環境</b>			0.25	<b>4.0</b>	1.00			<b>3.8</b>
3.1 屋光利用			<b>3.0</b>	<b>4.0</b>	0.50			
1 屋光率		(住)屋光率:2.0%	-	5.0	0.50			
2 方位別開口			-	3.0	0.30			
3 屋光利用設備			<b>3.0</b>	3.0	0.20			
3.2 グレア対策			-	<b>4.0</b>	0.50			
1 屋光制御		カーテン+庇によりグレアを制御	-	<b>4.0</b>	1.00			
3.3 照度			-	-	-			
3.4 照明制御			-	-	-			
<b>4 空気質環境</b>			0.25	<b>3.8</b>	1.00			<b>3.8</b>
4.1 発生源対策			-	<b>4.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	-	4.0	1.00			
2 アスベスト対策			-	-	-			
4.2 換気			-	<b>3.6</b>	0.38			
1 換気量		基準法の1.2倍以上の換気量	-	4.0	0.33			
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/8以上	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			-	3.0	0.33			
4.3 運用管理			-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視			-	-	-			
2 喫煙の制御			-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		-			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>			0.40	<b>3.2</b>	1.00			<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ			<b>3.0</b>	<b>4.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性			-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		各住戸で100Mbitクラスのプロードバンドが利用可能	-	4.0	1.00			
3 バリアフリー計画			<b>3.0</b>	-	-			
1.2 心理性・快適性			-	<b>2.0</b>	0.40			
1 広さ感・景観			-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース			-	-	-			
3 内装計画			-	1.0	0.50			
1.3 維持管理			<b>3.0</b>	-	-			
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-			
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-			
3 衛生管理業務			-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.30	-			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震			<b>3.0</b>	0.50	-			
1 耐震性			3.0	0.80	-			
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-			
2.2 部品・部材の耐用年数			<b>2.9</b>	0.30	-			
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.10	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-			

2.4 信頼性			3.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、浸水の危険性がない、ケーブルテレビの導入	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 0.90	4.9	0.50	-	-	4.9
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		-	-	-	-	
	集合住宅の評価(3c)	高効率照明器具の採用	4.9	1.00	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能+再利用できるユニット部材	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:73%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称)オンブラージュマンション

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				88	0.40	35.20
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.06			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.17			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.9	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.11			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				63.9	0.20	12.78
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数